

私の本棚

▶「働く女子と罪悪感」（浜田敬子著、集英社）

均等法世代として1989年からジャーナリズムの前線で働いて来た著者が「この30年で何が変わったのか、何が／なぜ変わっていないのか、これから変えていけるのか」を考えるために、自身の世代の物語をつづった1冊。AERAの元編集長で、現在ネットメディアのビジネスイ

アクサ生命保険社長

安瀨 聖司氏

ンサイダーを率いる著者だけに、体験談にとどまらず、視点を柔軟に変え、仕事や会社のあり方にも筆はおよび、さらにメディアという職業についても様々なインサイトが得られる。

例えば、女性視点から少し離れて「どこに新たな『芽』があるかもわからない時代には、広くボトムアップで意見を聞ける人、多様な人とフラットに付き合える人の方が管理職には向いている」と、これだけでリーダーシップ論が1冊書けそうなテーマがさらっと書いてある。一方、自分にも厳しく「私たちはいつしか自分たちのクローン的な価値観を下の世代にも求めていたのかもしれない」と、広い世代の読者と痛みを共有することも忘れない。

この本は女性と働く機会のある多くの男性に読んで頂き、仕事やキャリアについて、女性の同僚や部下や上司と率直に対話するきっかけとしてほしい。

デスクトップの隅